見よう。

今の露領トルキスタンの北方、アクモリンスク州の南の方に、往昔康居といふトルコ民族に屬する遊牧民の國があつて、古く西洋紀元前二世紀の頃から支那にその名を知られて居つた。漢代の歴史を記せる漢書に依ると、此の國の主は樂越匿といふ地に居りて國を治め、夏はまた別の處に居ると見えて居る。此れだけの記事では要領を得ないが、前に述べた所を參照して見れば、此のトルコ族は現代の同種族なるキルギス族と同樣に、その生活上の必要から夏冬の時期に各々居處を轉じたもので、冬の間治して居るといふ樂越匿なる名は、今のトルコ語のウルグ・オツトク卽ち大部落の語に外ならぬ。元來オツトクといふのはテメチと稱する役人に屬する部曲の民を呼ぶ名で、從つてかゝる民の部落を某オツトクと稱するのであるが、此の名稱は蒙古族の間にも行はれて、蒙古源流なる書物にも屢々此の名稱は記され、現今の蒙古語ではオトクといふて居る。尤もこれは冬居といふ意味ではなく、冬居に對してはキシュラクの語があり、夏居に對してはヤイラクなる語がある、畢竟遊牧生活の狀態は二千年の昔も今も變ることなく、季節によつて居所を變へねばならぬ次第であることを了り得る。

同じく此の時代に於て今の天山南路の中、天山に沿ふた伊犂河上流の地方に烏孫なるトルコの一部族が據つて居た、一時は甘肅省內に住んで居たものであるがこゝを逐はれて天山地方に移つたものである。此の部族では君長もしくは貴人に對して『靡』の稱を付して居たことを漢書烏孫傳に依て知ることが出來る。また唐の時代に於ても黠鞮（キル）（ギス）部族の間では之を『輩』といふたものである。此の『靡』といひ『輩』といふのは、共に前に述べて置いた今